

QRコードの推進者・柴田彰氏が 工業標準化事業表彰で内閣総理大臣表彰

経済産業省は、工業製品の標準化推進活動に優れた功績を有する個人・組織を表彰する「工業標準化事業表彰」を、毎年10月の「工業標準化推進月間」に合わせて実施している。今年度の表彰式は去る10月23日、都内で開催されたが、今回の内閣総理大臣表彰を、本誌でもたびたび登場いただいた柴田彰氏（70、元デンソー／デンソーウェーブ、現在は自動認識コンサルタント代表）が受賞した。

内閣総理大臣表彰はISOやIECなどの国際標準化機関において要職を努めたことによる日本の地位向上や、日本発の国際標準の実現等、我が国の国際標準化に極めて顕著な功績があった者に対する表彰。対象は1名で、今回はその他に経済産業大臣表彰：20名、2組織、産業技術環境局長表彰：31名、3組織が受賞している。

◆主な功績

①柴田氏は日本で発明・開発された技術として高い評価を集める二次元コード「QRコード」の推進者。JIS原案作成委員長として取りまとめた数多くの規格の国際標準化を推進し、同コードの国際規格の審議を行うISO/IEC JTC1/SC31（自動認識及びデータ取得技術）国内委員長及び国際規格原案作成者として、国際規

格成立に貢献した。

同コードは1997年に業界規格として制定され、1999年にJIS X 0510に採用された。これらを基礎にJTC1/SC31の国内委員長として、国内の意見を取りまとめ国際提案を行った。JTC1/SC31では、国際規格原案作成者として国際標準化活動の中心的役割を果たし、2000年にISO/IEC 18004として制定された。

②QRコードは当初、自動車部品の効率的な流通を目的に開発されたが、小スペースに膨大な情報量が伝達可能という特徴に加え、漢字をはじめ各国の言語に対応可能なように開発された。QRコード以外の二次元コードは米国の発明であり、自動車、エレクトロニクス業界での採用競争が熾烈であったため、国際規格に採用された意義は大きい。

同氏は、その後数多くの同コードに関する国際標準化を推進したが、2005年には、電子部品を対象としていた国際規格を全ての部品・製品に拡大した規格の成立、2006年には航空宇宙産業の部品・製品に表示する規格の成立等に中心的役割を果たし、自動車業界にとどまらずあらゆる企業活動において情報伝達を間違いなく行う手段として活用できるよう国際標準化を推進した。また、漢字等の多言語に対応可能であるた

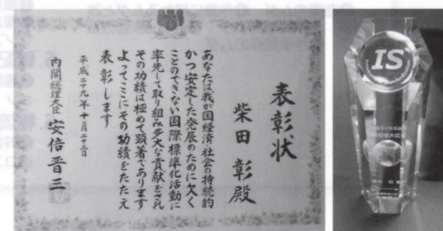
め、中国、韓国、ベトナムといったアジア圏で国家規格に採用されるだけでなく、欧米にも普及しつつある。

③現在では、航空券や入場券等の情報表示、伝達手段としてQRコードを用い、携帯電話に搭載されたアプリケーションソフトを用いて同コードを読み取ることは一般的となっており、氏の国際標準化活動の結果、QRコードは、産業界のみならず、一般の人々の生活にも広く普及しており、経済的波及効果は大である（以上、経産省発表資料より本誌編集）。

◆表彰式と講演会

表彰式では経済産業省の末松広行産業技術環境局長らが各受賞者を表彰した後、柴田氏が受賞者を代表して答辞を読誦。同日午後には特別記念講演会が開催され、柴田氏は受賞者を代表し「QRコードの標準化と事業戦略」の題で記念講演を行った。

なお同氏はQRコードに加え、RFID関連企画の国内・国際標準化にも尽力し、その提言を本誌は重ねて紹介してきた。RFIDがさらに社会に浸透した際に、これらの功績も評価されることを期待したい。



安倍総理名での表彰状とトロフィー



末松産業技術環境局長から賞状を受け取る柴田氏(左)



記念撮影、中央左が柴田氏